

2025年12月18日
株式会社日立ソリューションズ

「2025年問題」を迎える突然の介護に困らないための備えや働き方の工夫を学ぶイベントを開催

ビジネスケアラーのリアルな体験談をオープンに共有し、仕事と介護を両立するための具体的な行動を後押し



<講演する播本氏>

<パネルディスカッションの様子>

株式会社日立ソリューションズ（本社：東京都品川区、取締役社長：森田 英嗣／以下、日立ソリューションズ）は、ビジネスケアラー¹が安心して仕事を続けられる環境づくりに向けて、「仕事と介護の両立」を考える全社イベントを11月20日に開催しました。3年目となる本年度は、「私の仕事と介護の両立」をテーマに、会場とオンラインを併せて、日立ソリューションズグループから約500名の社員が参加しました。

日本では「2025年問題」を迎える団塊の世代（1947～1949年生まれ）が75歳以上となり、人口の約5人に1人が後期高齢者となる社会に突入し、ビジネスケアラーが増加しています。

日立ソリューションズは2022年度に全社で実施した新CSR活動を考えるアイデアソンをきっかけに、「仕事と介護の両立」を自社の経営課題として捉え、介護をオープンに相談しあえる企業文化の醸成や、働き続けられる職場づくりをめざすプロジェクトを推進しています。そして、オープンコミュニティなどを通じ、その経験や知見を広く社会に発信、共有する活動を行っています。本イベントでは、「介護コンシェルジュ²」を日立グループ各社に向けて提供し、介護支援制度や企業の両立支援施策に関する豊富な知見を持つ株式会社インターネットインフィニティーをお招きし、突然の介護で困らないための備えを学ぶとともに、ビジネスケアラーとして仕事と介護の両立に取り組む日立ソリューションズグループ社員がリアルな体験談を共有するパネルディスカッションを通して、両立のための働き方の工夫などについて理解を深めました。参加者からは、「さまざまな事例をもとに、自分なりの対応について考えることができた」、「今後発生する介護に対して前向きに事前準備する気持ちになれた」といった声があり、仕事と介護を両立するための具体的な行動を後押しする機会となりました。

今後も、最大の資源である人財が安心して働き続けられる環境づくりに継続して取り組み、企業と社会のサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）を加速させ、誰もが幸せな社会の実現に貢献していきます。

*1 介護に従事しながら働く人。ピークを迎える2030年時点で約318万人になり、介護発生による労働者の生産性低下等が日本全体に与える経済的損失額は約9兆円と推計されている。

出典：経済産業省 <https://www.meti.go.jp/press/2023/11/20231106001/20231106001.html>

*2 悩みを抱える社員の目線に立った相談体制を構築し、介護に関する知識不足を補い、支援する同社の法人向け福利厚生サービス

有識者講演「仕事と介護の両立をするために～突然の介護で困らない！今から備えておきたいこと～」

株式会社インターネットインフィニティー 執行役員 播本 賀彦氏、介護コンシェルジュ相談員 吉井 しのぶ氏

「現代の日本では、突然介護が始まるケースが増え、多くのビジネスパーソンが仕事と介護の両立を迫られている。介護離職は精神的・経済的負担が大きく、実際に辞めた後も約 6 割以上が『負担が増した』と感じているという厚生労働省のデータもある。そのため、仕事と介護の両立の実現に向けて、介護のプロや会社・地域の制度を活用し、家族や職場の仲間とチームで対応することが重要。下記の両立のポイントを意識し、早めの情報収集と相談が、安心して仕事と介護を両立するための鍵。自分一人で抱え込みず、専門家や周囲の力を借りて、効率的かつ前向きに両立をめざすべき」

<両立のポイント>

- ・介護保険や地域包括支援センター、ケアマネージャーなどの専門家へ早めに相談
- ・デイサービス、配食サービス、訪問介護、介護保険外サービスなどを組み合わせて介護を進める
- ・会社の制度や休暇制度を活用し、職場でも理解と協力を得る
- ・介護する側のメンタルや生活も大切にし、無理をしそうない

パネルディスカッション「私の仕事と介護の両立」

ビジネスケアラーの社員 4 名が、仕事と介護の両立に向けた働き方やコミュニケーションなど工夫したことについて、それぞれのエピソードを紹介しました。また、ディスカッションには介護コンシェルジュ相談員の吉井氏も参加しました。

主なコメントは以下の通りです。

- ・ケアマネージャーや施設との連絡を電話から SMS、LINE に切り替え、空き時間に対応することで業務への影響を減らしたり、会社の遠隔地勤務制度や休暇制度を活用したりして働き方を工夫した
- ・遠隔地勤務制度を活用し、実家からリモートワークをしながら、上司や同僚にスケジューラーやチャットで予定や状況を細かく共有することで、周囲の理解と協力を得るよう心がけた
- ・週 1 回の定例会で業務以外の共有事項として介護や通院の情報も話し合う場を設け、プライベートな事情も含めてオープンにすることで、チーム内の関係性を深めていった

イベントに参加した社員の声

- ・突然やってくる介護について、どのように対応したら良いか時系列で理解できた
- ・介護が始まる予備段階から相談を始めてもいいことがわかり、安心した
- ・みんな何かしら介護で苦労していることを知って、共感できて、良かった

日立ソリューションズの新 CSR 活動創生プロジェクト「仕事と介護の両立」

日立ソリューションズは、持続可能な社会への貢献と、自社の持続可能な経営に向けた変革活動である SX を掲げた 2024 中期経営計画の一環で、2022 年度に新 CSR 活動を考えるアイデアソンを全社で実施しました。優勝チームが掲げたテーマが「仕事と介護の両立」で、2023 年度から社員参加型で活動の設計を行い、社内で介護への理解を深め、介護に伴う生産性低下への対策や離職リスクを低減する施策、相互支援の仕組みの創出をめざしています。

具体的には、これまでに、実態把握のための調査をはじめ、介護リテラシー向上のためのセミナーを定期的に実施し、社員が自由に参加できる社内コミュニティも立ち上げました。2025 年 8 月には、オープンなコミュニティ「ハロみん」と連携して、従業員や人事部門、管理職など多様な立場の参加者が意見交換を行い、両立支援の本質に迫るイベントを開催

するなど社外にも活動を広げています。ビジネスケアラーやその予備軍であるネクストケアラーを支える知見を広く企業に提供し、社会実装に向けた取り組みを推進しています。

「ハロみん」イベントレポート「みんなで向き合う仕事と介護の両立～事例から考える企業の取り組み、基本のキ～」
https://future.hitachi-solutions.co.jp/article_action/096.html

日立ソリューションズのサステナビリティに対する取り組み

日立ソリューションズは、持続可能な社会の実現に向けて、環境価値・社会価値・経済価値のトレードオンでの向上をめざす全社活動「SX プロジェクト」を 2022 年度に立ち上げ、2024 中期経営計画を推進しました。2024 年 4 月には、長期的に取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を特定し、協創や価値創造の連鎖に取り組むとともに、ワクワクする未来を創造していくためのオープンなコミュニティ「ハロみん」も立ち上げました。2025 年からは、サステナビリティ経営を実践する新たな推進体制に移行し、社会課題の解決に向けた事業創出を全社で支援する取り組みも継続しています。

<https://www.hitachi-solutions.co.jp/company/sustainability/>

日立ソリューションズについて

日立ソリューションズは、お客さまとの協創をベースに、最先端のデジタル技術を用いたさまざまなソリューションを提供することで、デジタルトランスフォーメーションを実現します。欧米、東南アジア、インドの各拠点が連携し、社会や企業が抱える課題に対して、グローバルに対応します。

そして、人々が安全にかつ安心して快適に暮らすことができ、持続的に成長可能な社会の実現に貢献していきます。

詳しくは、日立ソリューションズのウェブサイト(<https://www.hitachi-solutions.co.jp/>)をご覧ください。

ソリューションに関するお問い合わせ先

株式会社日立ソリューションズ

<https://www.hitachi-solutions.co.jp/inquiry/>

報道機関お問い合わせ先

担当：竹谷、安藤

株式会社日立ソリューションズ

経営企画本部 広報部

koho@hitachi-solutions.com

※ 記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

このお知らせに記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL など)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
